〈研究ノート〉

栃木方言における尻上がり調の出現位置
―老年層と若年層の女性話者の比較―

高　丸　圭　一

キーワード：栃木方言，イントネーション，尻上がり，昇降調

1. はじめに

栃木方言では，ピッチパタンに関する特徴として，アクセントによって単語を弁別しない「無アクセント」に加えて，「尻上がり調になる傾向が強い」ことが指摘されている（森下 2004 p.22）。これは北関東の方言に広く見られる特徴でもある。また，尻上がり調は，現在では若い女性などを中心として広く用いられていることが知られている（井上 2008）。いずれも，句末または文末の昇降調（注1）であるが，若者の尻上がり調と方言の尻上がり調は出現位置や音響量が異なることが指摘されている。本稿では，栃木県北部で生育した明治生まれの女性１名（老年層）と現代の若年の女性１名（若年層）による自由会話を分析し，栃木方言の尻上がり調の出現位置について考察する。

2. 尻上がり調の出現位置の老年層と若年層の比較

明治生まれの栃木方言話者と現代の若年栃木方言話者それぞれの自由会話音声資料（注2）から，尻上がり調（昇降調）と判断される部分を聴取によって抜き出した。聴取は筆者を含めた複数人によって行った。それぞれの音声資料における，尻上がり調の出現位置（句末／文末）および，助詞との共起関係を表１に示す。

表１　尻上がり調と助詞との共起関係

	助詞	老年層	若年層
文末	終助詞：ね	9（64%）	1（ 2%）
	終助詞：よ	1（ 7%）	1（ 2%）
	終助詞：かい	1（ 7%）	0（ 0%）
句末	間投助詞	0（ 0%）	5（12%）
	接続助詞	0（ 0%）	22（54%）
	その他	3（21%）	10（24%）
	ϕ	0（ 0%）	2（ 5%）
合計		14	41
発話区間（分：秒）		2:51	4:26
収録時間（分：秒）		37:11	11:29

2つの音声資料は，発話時間長が異なる上に，尻上がり調の出現は発話の内容（文脈）に依存するため，出現数そのものを直接比較することはできない。しかし，老年層と若年層の尻上がり調の出現位置には以下のような傾向が観察される。（例の下線は昇降調を表す。）

① 老年層の尻上がり調は，文末で終助詞「ね」と共起するものが多く観察された。

例）食べりゃいい味だかんね ／ 馬車屋でやったったね

② 老年層の句末の尻上がり調のうち2例は，提題・対比の助詞「は」と共起していた。

例）うちの裏の荷様は白狐だったの ／ そのお饅頭もらったのはみっちり抱えたんで…

③ 若年層の尻上がり調の多くは句末（非文末）に出現している。間投助詞「ね」「さ」などと共起する例もあるが，接続助詞「から」「けど」「て」などと共起するものが多い。

例）お父さんもお母さんも公務員だから，自分も公務員になりたいって志望してて

④ 聴取によると，若年層と老年層の尻上がり調ははともに，若者の尻上がり調と比べて急峻にピッチが昇降している。

3. 考察とまとめ

老年層の特徴①は同意の意図を表す終助詞であり，共通語では上昇調が使われることが多い場面といえる。また，老年層の特徴②は助詞の卓立と考えることができ，共通語でもピッチが上昇する場面である。本音声資料の範囲では，尻上がり調の生じる位置自体は共通語の発話でもピッチ上昇が生じやすい位置であり，方言の特徴であるとは言えない。また，若年層の特徴③は，佐々木（原）（2004 pp.89-90）の指摘する“いわゆる「尻上がり」イントネーション”が現れやすい箇所と一致する。すなわち，若年層話者の尻上がり調は栃木方言と知覚されるようなピッチの昇降で，若い女性などが用いるいわゆる「尻上がり」イントネーションを実現しているといえる。

これらのことから，栃木方言の尻上がり調の特徴は，句末や文末にピッチが上昇するという現象（頻度や位置）にあるのではなく，ピッチ上昇が無アクセントに続く急峻なピッチの昇降で実現されるため，際だって知覚されるという音響的な側面にあると考えられる。

本稿では，栃木方言の尻上がり調について，出現位置（句末／文末），共起する助詞の種類に基づいて分析した。今後，栃木方言の尻上がり調と若者の尻上がり調などの音響量の比較分析を行う。

謝　辞

本研究の一部は，科研費若手研究（B）（No.22720182）の助成を受けたものである。

〈注〉

(1) 栃木方言の発話で尻上がり調と判断される部分には，上昇調を含む場合があるが，本稿では，上昇調は対象としないこととする。

(2) 老年層女性話者の資料として，国立国語研究所編「ふるさとことば集成（栃木・茨城編）CD-ROM」に収録された音声を用いた。これは日光市で生まれ育った明治42年生まれの自由会話を昭和54年に収録し

たものである。若年層女性話者の資料は筆者が録音したものを用いた。これは，昭和60年生まれの那須塩原市で生まれ育った女性の自由会話を平成22年に収録したものである。

参考文献

井上史雄（2008）『社会方言学論考』，明治書院
佐々木（原）香織（2004）日本語音声談話の韻律構造，東京外国語大学博士論文
森下喜一（2004）『栃木県のことば』，明治書院